

## 令和元年度第1回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 平成31年4月23日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 市立病院本館5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介  
理 事 森 一樹，黒田 啓史，半場 江利子，松本 重雄，位高 光司，  
能見 伸八郎，山本 みどり，白須 正  
監 事 長谷川 佐喜男，中島 俊則  
事務局 折戸経営企画局次長，長谷川担当部長，濱口経営企画課長，石田総務担当  
課長，北川京北病院事務長

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 第3期中期計画初年度の重点目標

資料1に基づき，森本理事長から説明  
意見なし

#### (2) 地方独立行政法人京都市立病院機構の組織改正について

資料2に基づき，折戸経営企画局次長から説明

- 組織改正を行ったことで，職員数は増加したのか。  
→ 職員数は増加した。放射線診断科内でIVR治療を希望する医師が今年数名入職した。

#### (3) 収益状況月次報告（平成31年3月分）

資料3に基づき，折戸経営企画局次長から説明

- 市立病院は前年度より増収したが，京北病院は横ばいである。また，京北病院の稼働率は目標値に達していない。稼働率上昇に向けた工夫はされているか。  
→ 市立病院は，増収となったが，引き続き手技収益を伸ばすために取り組む。京北病院については，新入院患者獲得に向けて，京北地区はもとより，京北地域以外の患者獲得に向けて取り組んでいく。  
→ 稼働率の向上に向けて，入院の基準を見直す等の取組を実施している。また，訪問診療，訪問看護を行っており，在宅療養か入院かの判断も慎重に考えていく必要がある。
- 京北病院利用の患者はどこから来ているのか。  
→ ほとんどが京北地域の患者である。一部美山からの患者もいる。
- 市立病院の救急に関する指標について，応需率は1月以降上昇しているが，搬送件数は累計で見ると前年度より件数が少ない。  
→ 救急に関する指標はいくつかあるが，複数の指標と照らし合わせて判断していきたい。救急告示病院として，救急車を受け入れ，断り件数を減らしていく。
- 1月以降紹介率が低下している。  
→ 紹介状のない初診患者が増加していることも原因であるとみている。現在，かかかりつけ医に診ていただける患者さんについては，逆紹介を推進しているほか，外来の紹介患者受入予約枠を増やし，紹介患者が待ち時間なくスムーズに診察していただけるようにしている。
- 再診患者が多いようだが，市立病院をかかりつけの先生と認識している患者も多いと思う。  
→ 当院は2人主治医制を掲げている。市立病院に愛着のある患者さんは多いが，疾患によっては

当院で診ることができない旨を患者さんに説明している。理事長からの重点項目にも掲げられている患者支援センターを立ち上げ、逆紹介に努めていく。

- 医師が前年度と比較し増加している。
  - 医師が増加したことを1つの利点と捉え、働き方改革も考慮し取り組んでいく。

#### (4) 月次収支報告（2月まで）

資料4に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 令和元年度以降の決算が厳しくなる。
  - 独法化後、毎年収益増の結果を出しているが、これまで以上に収益増、経費削減に向けて取り組む必要がある。
- 例えば、病院の駐車場料金を無料化せず、患者さんから徴収することを検討されてみてはどうか。少しの工夫が病院経営につながる。近隣の病院では駐車場は有料である。
  - 駐車場の混雑緩和にもつながるため、検討させていただく。

#### (5) 訴訟案件について

資料5に基づき、折戸経営企画局次長から説明  
議案のとおり承認された。

### 3 閉会